

2-4. 地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組みの企画・開催

取組み方針①：市民、地権者、若手の会及び NB ミーティングに対して普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、まちづくり人材育成に繋げるためにまちづくり講座を実施した。

(1) まちづくり講座の開催

1) 開催概要

①目的

跡地利用において大規模公園を想定し、これまでの若手の会等での検討においてもこの大規模公園を始めとする公共空間を、民間と共に有効活用していきたいという考え方が示されてきた。

令和3年度のまちづくり座談会において、跡地利用でこうした公共空間の利活用を実現するためには、跡地のまちびらき後に取組み始めるのではなく、「今から」公共空間を活用しようという文化・市民意識を周辺市街地において作ることが大事であると示唆を頂いた。

そこで、今年度のまちづくり講座のミッションを以下の2つに設定する。

i) 公共空間を活用する文化を周辺市街地で醸成するきっかけを作る。

ii) 公共空間の利活用にあたって関係者・市民と連携・協力しながら進められるよう周知を図る。

②テーマ

▶ 今年度の若手の会、NB ミーティングの検討テーマを踏まえ、テーマを「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」と設定する。

③開催方法及びスケジュール、講座内容

今年度は「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」を共通のテーマに、全2回実施し、一般市民、若手の会及び NB ミーティングに対する公開型の会場開催と、Youtube 動画サイトによる一般公開を行った。

開催日		タイトル	プログラム
第1回	1月21日 (土)	まちあるき in ぎのわん	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨説明 ・跡地における公共空間と若手の会の考えの紹介 ・公共空間の活用事例紹介 ・説明→まちあるき ・グループワーキング -公園・公共空間の活用方法- ・発表・とりまとめ

開催日		タイトル	プログラム
第2回	2月17日 (金)	フリースペースを活用した賑わいの場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶と主旨説明 ・前回の振り返り ・まちづくりの進め方 ・スモールスタートで始めるまちづくりの講義 講師：宋^{ソン}俊^{ジュン}煥^{ファン}氏 (山口大学 大学院創成科学研究科 准教授) ・意見交換・ディスカッション ・参加者からの質疑応答 ・閉会

2) 各会の内容・要旨

①第1回まちづくり講座

- 開催日時：令和5年1月21日（土）09：00～12：00
- テーマ：基地跡地利用をどうするか
- 公開方法：1月21日（土）午前9時～午後12時 @ 伊佐公民館
- ダイジェスト紹介：YouTube 配信（後日）[第2回と合わせて]
・3月9日（木）～YouTube に、動画を公開。
- 会場参加者：22名

a) 出演者

【プレゼンター】

- 若手の会 宮城 武氏

【グラフィックレコーダー】

- ちょこ(室伏 長子)

きくひと、かくひと、はなすひと。いっしょに何かをつくるひと。描く通訳者。グラフィックレコーディングやパーソナルインタビューなどのほか、企画・ワークショップ、研修講師なども行っている。現在は、オンラインでも活動の幅を広げている。

【講座の主なポイント】

①基地跡地利用をどうするか

緑の中のまちづくりを考えている。公園、広場、空間を作りたい。できる前から、日頃空間をどう使っているか。どのように使いたいか考える。

②緑の中にまちをつくる

まちから緑をではなく、“緑の中にまちをつくる”取組を（シンガポールで進められている）。高い水準にしていきたい、周辺の緑も中にある普天間公園でも楽しめるまちづくりを考えている。

③ネットワーク型のまちづくり

中だけでなく、周辺も考えていくためのまちあるきを行う。全国的に外の空間(公共空間)を楽しくしていく。

b) プログラム

【タイムテーブル】

- 09:00～09:05 開会、まちづくり講座の主旨説明
- 09:05～09:10 跡地における公共空間と若手の会の考え方について紹介
- 09:10～09:20 公共空間の活用事例紹介
- 09:20～10:35 ルート説明・まちあるき
- 10:35～11:15 グループワーク
- 11:15～11:45 グループ発表・とりまとめ(30分)
- 11:45～11:50 質疑応答・閉会

c) 配信案内チラシ

若手の会、NBミーティング、大学生（琉球大学、沖縄国際大学）、宜野湾市の職員や関係機関等へ周知を行った。

令和4年度 普天間飛行場跡地利用を考えるまちづくり講座(2回連続講座)

参加無料

Vol.1

普天間飛行場周辺市街地との連携による
価値の高いまちづくりのすすめ

伊佐区

まちあるき inぎのわん

普天間飛行場は全面返還が合意されており、跡地では活用できる自然・歴史を公園として確保するみどりの中のまちづくりの実現に向けて検討を進めています。

「子どもが遊べる場がほしい」「大人もくつろげる場所があるといいな」など
普天間飛行場周辺の公園や公共空間を活用した、「今からできること」について考えてみませんか？

2023年

日時 1/21 土 9:00-12:00
(8:30から受付開始)

会場 伊佐区自治会事務所

募集人数 20名 注)先着順受付になります。
注)中学生以下のご参加は保護者同伴となります。

申込方法 下記電話番号または二次元コードからも可能です。

公共空間の活用事例紹介:30分程度
まちあるき:1時間程度
グループワーク:1時間程度

【位置図】
利原市営住宅 伊佐区自治会事務所 伊佐郵便局 法務局
南宜野湾住宅 国道58号 宜野湾ハイパス

※申込み期限:1/17(火)まで。
注)雨天決行。しかし、天候等で内容の変更もあります。
注)申込方法等の不透明点は、電話にてお問合せください。

QRコード

Vol.2

【第2回 まちづくり講座 ご案内】
フリースペースを活用した
賑わいの場づくり

日時 2/17(金) 18:00-20:00
(17:30から受付開始)

会場 伊佐区自治会事務所

内容 【講演】公共空間を活用した場づくりの先進事例

講師:宋 俊煥氏
山口大学大学院創成科学研究科
建設環境系専攻 准教授

●第1回ワーキング結果報告
●講師とディスカッション

参加無料

みんなで
まちをあるいて
フクワクを
かんがえよう!

通りを活用して、みんなが
楽しめることができた
いいな

写真:ふんしんせせらぎ通り

主催 宜野湾市 まち未来課
事務局 昭和株式会社 担当:河村・池村
TEL:098-876-5107 FAX:098-876-5131

第1回案内チラシ

d) まちづくり講座要旨

普天間飛行場周辺市街地との連携による
価値の高いまちづくりのすすめ

まちあるき
inぎのわん 伊佐区

こんな場所を
こんなことしたい
グループ発表

あるき... 又33

伊佐区
まちあるき

公共空間
まち活用
事例紹介

どんな場所を
どんなことが
したいかな?

記録の中の
まちづくり
公園
空きスペース

NEXT 2月!

今日の流れ

宜野湾市 若手の会
ながやま さんから

河村 さん

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 伊佐区 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 2023 1/21 0 自治会事務所

【跡地における公共空間と若手の会の考え方について紹介】

説明：普天間飛行場の跡地を考える若手の会 宮城武氏

内容：これまでの若手の会の取組について紹介を行った。

普天間飛行場周辺市街地との連携による
価値の高いまちづくりのすすめ

まちあるき
inぎのわん 伊佐区

若手の会

どんなまちにしたいか?
まちが緑を、緑を
“緑の中にまちをつくる”
取り組みを。 (シンガポールを参考している)

全国的に
外の空間を楽しくして
(公共空間) 動きがある。
行ったのしい場所に

高い水準にしている!! “100%9-10!!”
周辺の緑も 中にある普天間公園でも
楽しめるまちづくりと考えている。 “緑の中の
“ネットワーク型のまちづくり” まちづくり

中だけでなく、周辺も考えていたための
まちあるき

いままらできる
まち活用も
(公共空間)

今日は
こちらをっていきます!

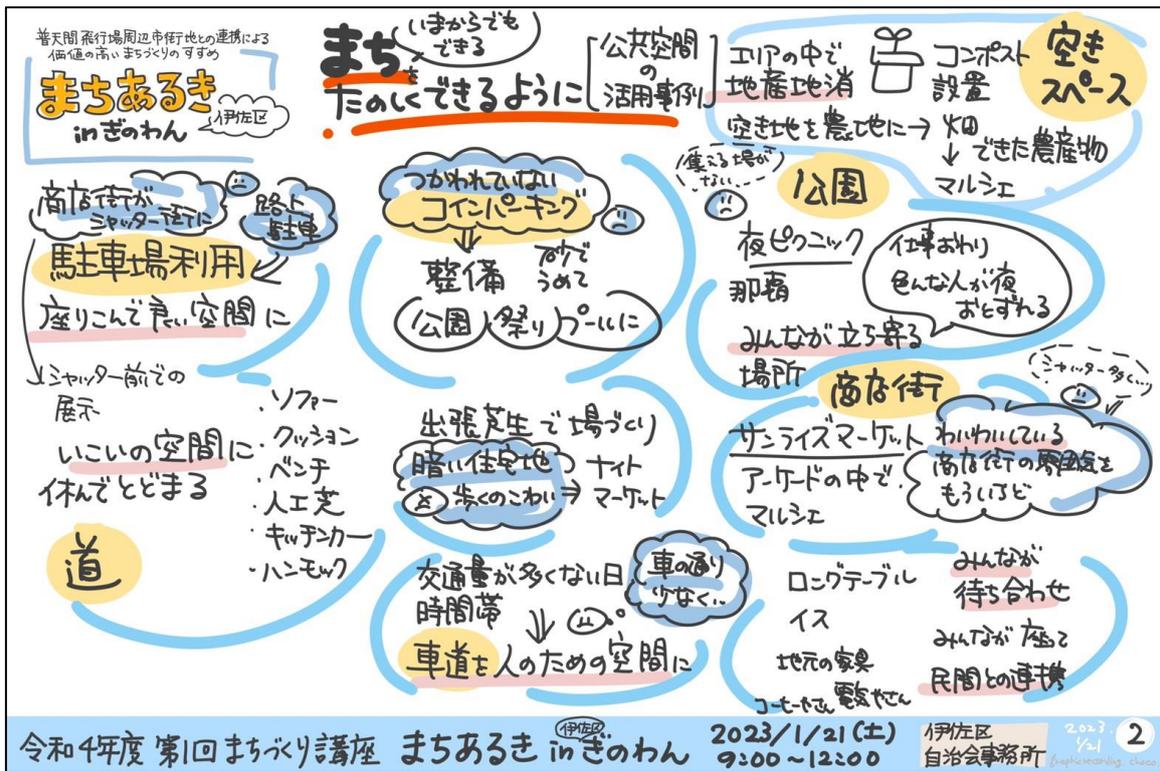
基地 跡地利用を
どうするか?
“緑の中のまちづくり”
を考えている
↓
公園・広場・空間が
つくられる
“利用してほしい!”

できる前から
日頃 空間をどう
つかっているか?
どのように使いたいか
考えていきたい!

2回開催
1月 まちあるき
×イン
2月 専門の先生を
よんで

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 伊佐区 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 2023 1/21 1 自治会事務所

【公共空間の活用事例紹介】



公共空間の活用事例紹介

1. 『Park(ing)Day2020竹原』
2. TOKIwaIKOT(ときわいこつと)
3. 中央町活性化の取り組み

1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市

Park(ing)Day2020竹原 実施概要

日時：2020年9月18日（金）10:00～21:00
 （当日雨天により16:00開始）
 （追加開催19日～20日）

場所：竹原駅前あいふる通り

主催：竹原市

目的：竹原駅前あいふる通りにおいて道路空間活用の一
 例となるPark(ing)Dayを開催することで、地域
 住民が集まり、居心地の良い空間を過ごすこと
 により、公共空間の新たな魅力を感じてもらう。



Park(ing)Dayとは

2005年に米国・サンフランシスコで始まった、路上パーキングスペースを**人のための空間に変える**取り組み。毎年9月第3金曜日に実施され、世界中のムーブメントになっている。



1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市

Aチーム 企画コンセプト 『歩いて楽しむ今昔ストリート』 実施状況



駅から見える
景観の変化



停車帯や駐輪場を
活用した休憩・滞留
スペース



非営業店舗の
シャッター前での展示



実施コスト
合計＝¥108,444.-

1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市



1. 『Park(ing)Day2020竹原』 広島県竹原市



2. TOKIwaIKOT(ときわいこつ) 山口県宇部市

- 2021年11月に開催
- 車中心の道路から人中心のウォークアブルな空間への転換を目指し、社会実験的に常盤通りの一部を活用し、歩いて楽しい様々な体験ができる空間を用意した。



2. TOKIwaIKOT(ときわいこつ) 山口県宇部市



- 側道にキッチンカー、建物側に出店テントを設ける
- 歩道には来場者が飲食でき、滞留するスペースを設けたいという考えから、トキスマ等で利用していた中古パレットを再利用し、立ち飲みカウンターが作られた。

3. 中央町の活性化の取り組み 山口県宇部市



【まちあるき】

まちあるきのルート



A) 伊佐交差点



B) 伊佐交差点-2



C) ふんしんポケットパーク



D) フンシンガー付近



E) フンシンガー



F) ふんしん川





G) ふんしんせせらぎ通り (入口)



H) ふんしんせせらぎ通り (シーサー像)



D) ふんしんせせらぎ通り (シーサー像付近)



J) ふんしんせせらぎ通り (さわふじの木)



K) ふんしんせせらぎ通り (水辺で遊ぶ子供たち)



L) ふんしんせせらぎ通り (川に生息するエビ)





M) 伊佐第二児童公園



N) 伊佐第二児童公園(広場)



O) 伊佐第二児童公園(遊具で遊ぶ子供たち)



P) 伊佐第二児童公園(木々の様子)



Q) 自動車整備工場で飼育されているウサギ



R) 自動車整備工場で飼育されているウサギ-2



■第1グループ(棚原さんチーム)

ふんしんせせらぎ通り

- ▶ 四季折々でイベントをする。
 - 夏→花火大会、夕涼み会など
 - 冬→クリスマスイベント、イルミネーションなど
- ▶ 子どもたちと水が触れ合う場（湧き水の大切さを学ぶ）
 - 子供たちに、魚やエビなどの生き物とのふれあう場の創出や、湧水（カー）の大切さを知らせてもらう。
- ▶ ネイチャーゲーム
 - 親子でゆっくりと通りを歩き、自然に生息する花、木、虫などを調べながら楽しむ。

伊佐児童公園

- ▶ 公園でイベントやりたい
 - グランドゴルフ大会などのイベントを開催する。近隣の住民も参加できるイベント（自治会活動）を開催することで自治会加入につなげたら良い。

第1グループ
せせらぎ通り
公園
四季の活用
子どもたちと自然のかかわり
花火
夕涼み
イルミネーション
にぎわい

自治会
グランドゴルフ
自然を上手に楽しむゲーム
ネイチャーガイド
住んでいても知らない場所があることを知らせよう!!

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 2023/1/21(土) 9:00~12:00
伊佐区 自治会事務所 2023/1/3

■第2グループ（安良城さんグループ）

ふんしんせせらぎ通り

➤ 平成4年に手づくり郷土賞受賞している通りである。ふんしんせせらぎ通りをアピールし、もっと観光客を呼び込みたい。

→ 沖縄の郷土料理を作り、観光客にふるまいPRする。

➤ フリーマーケット、マルシェの開催。

➤ プチパーク

→ 小さな公園、子どもたちが休憩できる場を設置する。

➤ オオゴマダラが集まる植物を植え、オオゴマダラを育てて蝶の舞うまちにしたい。

➤ 再整備してより活性化。



オオゴマダラ

伊佐児童公園

➤ 子どもたちが楽しめる運動会の開催（周辺住民を集めてイベントなど）

➤ 一輪車などの遊びをしても、安全な仕組みが必要。

➤ 小さい子どもたちのいるお宅間での洋服シェア（フリーマーケット）

➤ 青空会議の開催

■第3グループ

駐車場

- 広い敷地でイベントを実施。まちのにぎわいを作りたい。

ふんしんせせらぎ通り

- 食べ歩きスペース、移動型カフェ
- 魚のつかみ取り

伊佐児童公園

- 空きスペースを活用し、児童キャンプ体験
→防災・自治につながる

軽便鉄道のあとを地域のPRに活用

ポケットパーク

- ヤギや犬などの生き物を飼育
→子どもも楽しめる。

馬車道

食べ歩き

広い敷地で

道路

にぎわいをつくらないか?

公園

児童キャンプ体験

防災→自治につなげていく

伊佐のシンボル!!

ポケットパーク

生き物いても◎

軽便鉄道のあとをPRに!

魚のつかみ取り

第3グループ

令和4年度 第1回まちづくり講座 まちあるき inぎのわん 伊佐区 2023/1/21(土) 9:00~12:00 伊佐区 自治会事務所 2023/1/21 5

②第2回まちづくり講座

- 開催日時：令和5年2月17日（金）18：00～20：00
- テーマ：フリースペースを活用した賑わいの場づくり
- 公開方法：2月17日（金）午後6時～午後8時 @ 伊佐公民館
ダイジェスト紹介：YouTube 配信・3月9日（木）～YouTube に、動画を公開。
- 配信会場：伊佐公民館
- 会場参加者：21名

a) 出演者

【講師】

➤宋 俊煥（ソン ジュンファン）

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用・人口減少都市の都市(地域)再生。1981年生まれ(韓国釜山)、2013年東京大学大学院博士課程修了(環境学博士)。特別研究員(JSPS・PD)・東京大学大学院特任研究員を経て。2015年4月から山口大学大学院理工学研究科助教。2019年4月から山口大学大学院創成科学研究科建築学コース准教授(工学部感性デザイン工学科担当)。実践研究活動として「若者クリエイティブコンテナ(宇部)」代表、まちづくり会社「にぎわい宇部」非常勤取締役、広島市カミハチキテル・ディレクター、竹原市都市デザインアドバイザー等。

【ナビゲーター】

➤ 堀江 裕典（昭和株式会社 開発事業部 営業開発室 室長）

【講座の主なポイント】

①前回の振り返り

第1回の結果、どこでどんな取組をすると良いというアイデアや意見が出たかなどを報告。

②まちづくりの進め方

昨年度までの市民向け講座を通して、まちづくり活動を実践することの重要性が明らかとなったことを説明。大きなビジョンと小さなアクションの関係性を示唆。

③スモールスタートで始めるまちづくり

YCCUの取組の事例を中心に、「小さな連携で小さく動き始める」時のポイントやその価値など。

b) プログラム

【タイムテーブル】

18:00～18:05	挨拶と主旨説明
18:05～18:15	前回の振り返り
18:15～18:25	まちづくりの進め方
18:25～18:55	スモールスタートで始めるまちづくりの講義
18:55～19:15	意見交換・ディスカッション
19:15～19:45	参加者からの質疑応答
19:45～19:50	閉会

c) 配信案内チラシ

若手の会、NBミーティング、大学生（琉球大学、沖縄国際大学）、また、宜野湾市の職員や関係機関等へ周知を行った。

令和4年度 普天間飛行場跡地利用を考えるまちづくり講座(2回連続講座)

普天間飛行場周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ



普天間飛行場は全面返還が合意されており、跡地では活用できる自然・歴史を公園として確保する「みどりの中のまちづくり」の実現に向けて検討を進めています。

第1回は、伊佐地区周辺のまちを歩き、公園や公共空間を活用した「今からできること」について話し合いを行いました。

第2回では「若者クリエイティブコンテナ（宇部）」代表でもあり、居心地が良いまちなかをつくる活動を行なっている講師をお招きし、公共空間を活用した事例をご紹介します。

【講演】公共空間を活用した場づくりの先進事例

【経歴】

山口大学 大学院創成科学研究科
工学系学域 感性デザイン分野
建築学専攻 准教授



【講師】
宋 俊煥氏
(そん・じゅんぷあん)

専門はアーバンデザイン・エリアマネジメント・低未利用地活用など。2016年頃より山口県宇部市の中心市街地において公共空間を活用した地域活性化に携わり、現在、「若者クリエイティブコンテナ（宇部）」代表等を務める。さらに他都市においても公共空間を活用した数多くのプロジェクトに携わる。



【ナビゲーター】
堀江 佑典氏
(ほりえ・ゆうすけ)
昭和株式会社 開発事業部
営業開発室 室長

TOKIwaIKOT(ときわいこつ) :
山口県宇部市の常盤通りの一部を「居心地がよく歩きたくなる」まちなかをつくるまちづくりに取組む。



出展:TOKIwaIKOT HP

日時 2023 **2.17 (金)** **参加無料**

会場 伊佐区自治会事務所

時間 **18:00~20:00** (受付17:30より開始)

定員 **30名** (注)先着順受け付けになります。

申込方法 下記電話番号または二次元コードからも可能です。※申込期限:2月13日(月)まで



申込QRコード



オンラインでも配信します



以下のURL又はQRコードからご視聴いただけます。
アプリケーション「Zoom」をダウンロードし、下記リンク先または右記のQRコードに各自で所有するパソコン、スマートフォンでアクセスをお願いします。
接続に関するお問い合わせは、事務局までご連絡ください。



オンライン視聴用

URL : <https://bit.ly/2VuI311>

主催 宜野湾市 まち未来課

事務局 昭和株式会社 担当:河村・池村
TEL:098-876-5107 FAX:098-876-5131

第2回案内チラシ（現在、視聴期間は終了しています）

d) まちづくり講座要旨

【まちづくりの進め方の説明】

- これまでのまちづくり講座の振り返り
- 2020年は2回開催し、1回目がグランフロント大阪、北谷町アメリカンビレッジの事例の紹介、2回目がポートランドの紹介を行った。
- 2021年は柏の葉キャンパスタウンの事例を紹介し、コミュニティが全ての基盤である。地区の住民がチャレンジできるという基盤が作っていけると良いという主旨だった。

堀江 佑典
Horie Yusuke
SHOWA
まちづくりの総合事務所
昭和株式会社

【2021年度 第1回】

- ✓ グランフロント大阪、北谷町アメリカンビレッジの事例
- ✓ これからの時代のまちづくりでは、歩いて暮らせる（ウォークアブル）、官民連携（PPP）の取組は不可欠。
- ✓ 人の視点に立った開発が新しい価値をつくる

【2021年度 第2回】

- ✓ ポートランドの事例
- ✓ 「人中心のまちづくり」において「みどり」は欠かせない要素
- ✓ グリーンインフラと地域性によるつながりづくりが重要
- ✓ 一朝一夕ではなく、時間をかけた取組と官民相互連携がカギ
- ✓ スモールスタート

【2021年度 第3回】

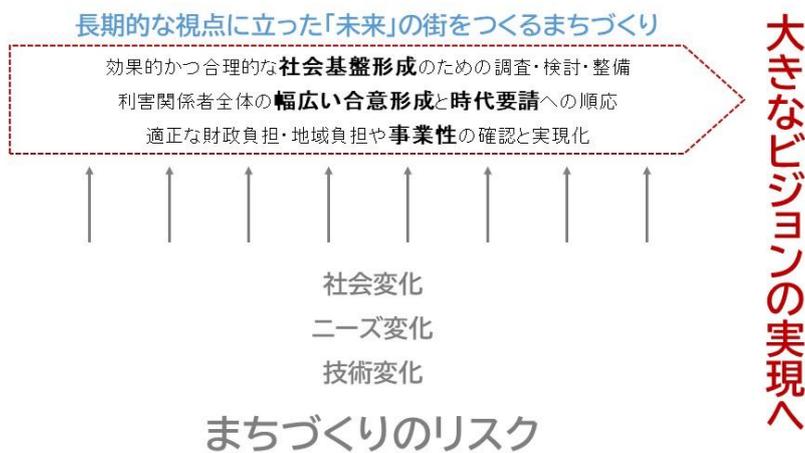
- ✓ 柏の葉キャンパス駅周辺のまちづくり事例
- ✓ 技術が日々進化していく中で、「スマートシティ」と言えども、人やコミュニティがあつてはじめて成立するものがある
- ✓ 地域の人もチャレンジしようとする機運や風土をつくっていくことが大事

今から出来ることがあるのではないかと
（「まちづくり」は既に始まっている）

➤

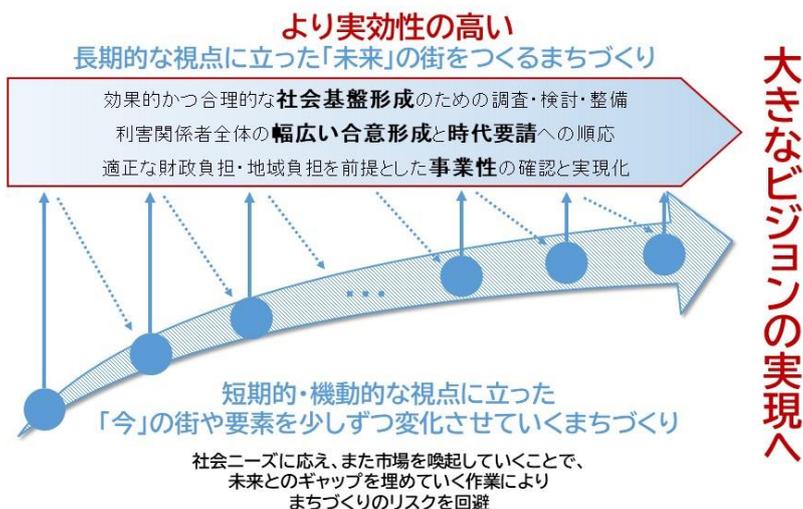
堀江 佑典
Horie Yusuke
SHOWA
まちづくりの総合事務所
昭和株式会社

「長期的なまちづくり」と「機動的なまちづくり」



- 長期的なまちづくりと機動的なまちづくりが重要である。
- 長期的な視点に立った「未来」のまちをつくるまちづくりを進める先に大きなビジョンの実現が見えてくる。

「長期的なまちづくり」と「機動的なまちづくり」

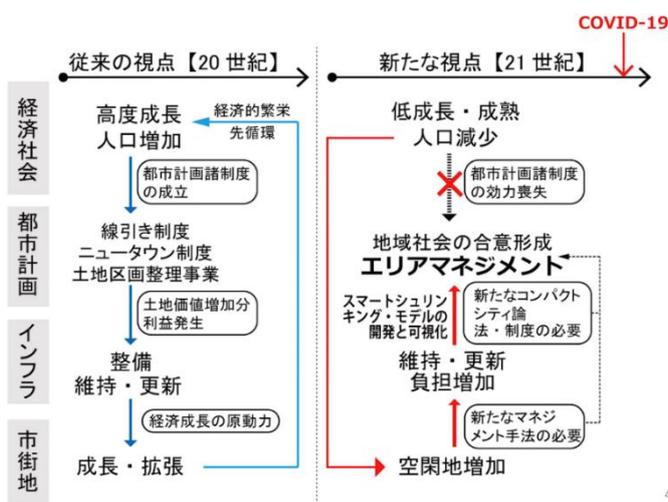


- ▶ 未来のまちを構想している間にも社会変化やニーズ変化、技術変化があり、状況は変わってしまう。
- ▶ そこでどのようにより実効性の高いまちを作っていくのかという時に必要な考え方としては、短期的・機動的な視点に立って「今」のまちや要素を少しずつ変化させていくまちづくりが求められる。小さい取組の積み重ねが重要である。

【スモールスタートで始めるまちづくり】

- ▶ 都市の政策の考え方と地域主体醸成の重要性について。沖縄は人口が増加しているが、全国的には人口が減少している。20世紀の人口が増加していた時代は新たなまちを整備して、人口が増え、そこから収益が生まれまた整備・維持・更新が図れるという時代であった。しかし、人口が減少している時代では、空家・空地等の空閑地が増加してしまった。そうすると、公共空間の維持・管理の負担が増加してしまっている。

近年、都市政策の考え方と地域主体醸成の重要性



そこで、都市を縮小していこうという話が出てきてい

出典：宋氏資料より抜粋

る。地域の方が合意形成をしながら進めていかないといけないことが増えてきている。そこで地域の主体性を育ててまちのマネジメントを行っていかないといけない。

- ▶ 空間デザインと政策・制度と並行して、短い期間でできる機動的なまちづくりの必要性、マネ

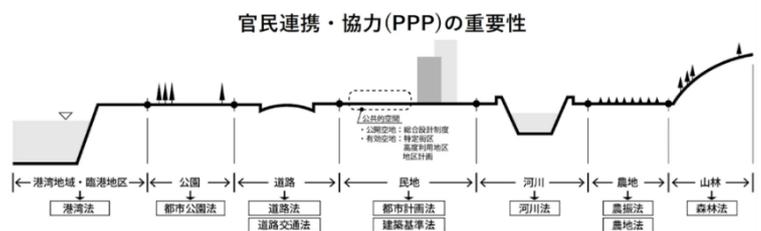
ジメント手法が必要になっている。

- 公共空間とは、行政が所有し管理する空間という考えがこれまで一般的であった。それが、個人所有のものではないが誰でも利用可能な空間として自由空間をパブリックスペースとする考え方が出てきた。さらに、公共空間には私的な公的空間も含まれてくるように変化してきている。

公共空間とは、

- ①行政の管轄(Governance Space)：所有と管理の観点
- ②自由空間(Public Space)：個人所有のものではなく、だれでも利用可能な空間
公平性/公開性の観点
- ③都市基盤(Infrastructure)：都市機能を支持する役割

- ➡ 公共空間の「量的」拡張から「質的」向上へ
- ➡ 私的空間の公的空間化(Open Space)：公開空地 / 空地 等



出典：宋氏資料より抜粋

- 港湾、公園、道路、民地、河川、農地、山林等それぞれの法律によって管理する方がわかれている。これらのボーダーを気にせず一体的に自由に使うことが求められている。
- 1つの先進事例として、東京の南池袋公園を取り上げる。南池袋公園の写真を見てもなにか普通の公園と違うか。芝生がとてもきれいだ。なぜこの公園だけがこんな高質の芝生に出来るのか。ここでたくさんのアクティビティが生まれている。なぜこのようなことが出来るのかというと、今までは公園は都市公園法に基づいて行政が維持・管理を行ってきた。



出典：宋氏資料より抜粋

- 南池袋公園では、「南池袋公園をよくする会」という団体が公園を管理している。この会には行政を始め植栽管理会社やイベント運営会社、町会などが入っている。その会の中で公園を管理するお金も生み出して、公園を良くするための空間づくりを行っている。

宇部市にある商店街がシャッター街になっている。エリアの半分くらいが駐車場となっており中々使われていない。1989年の時期には商店街に賑わいもあった。昔のように戻せないけれど、人口減少の時代にどのようなことができるのかという考えで始まったのが若者クリエイティブコンテナの取組である。上から見ると駐車場だらけ。土地所有者も建替えをやるとうということに中々



整備前の現状



空き家をポケットパークへ



空き家をアジト(サードプレイス)へ

出典：宋氏資料より抜粋

ならない。一方でこういうスペースを使いたいという市民は一定数いた。

- そこで行政が土地を借りて、使えるように変えていった。
- まずは、危ない空家等を撤去しようというところから始めた。全体整備するのに3,000万くらいかかった。トイレと倉庫、カフェ、芝生広場を作った。
- 山口大学には工学部や医学部があり、他にもいくつか大学があった。しかし、若者があまりまちに来ないという現状があった。そこで、「若者」の目線から「まちなかをどのように再生していくか」を考え始めた。
- 拠点施設をつくるのが大事であると考えていた。拠点があると情報が集まる。人が集まる。それによって課題が集まり、その拠点で調整が出来る。
- 次のステップとして、出来上がった芝生広場をとりあえず使ってみようということを行った。つくることよりも、作ってからが大事である。作ったけれど中々使わないということがよく起きる。
- そうした中で、空いている公的空間を活用しようということで、カフェを作っても良いと手を挙げてくれた人がいた。その方は、「無いものに目を向けるのではなくあるものを活かしてまちを良くしていく」ということをおっしゃられる方で、こういう方がまちにいらっしゃることが大きい。さらに、宇部出身でイベントの企画開催等を行う方を巻き込んでいった。
- この方々とイベントを行っていった。最初は数回しかできなかったイベントが次第に月に何回か、週に何回か開くことができるようになっていった。

- ▶ 活動を見える化することが大事であった。イベントを実施することで人々が集まってきて、話し合うきっかけができてくる。応援者が増えてくる。そしてイベントのノウハウが蓄積されてくる。
- ▶ 行政の方とやぐらを作ったり、周りの方に周知しに行ったりと精力的に活動していった。
- ▶ こういった活動が蓄積されてくると、今度は活動を面的に広げていくことを考え始めた。芝生広場が商店街から見えづらい場所に位置していた。そこで、行政が空家があった場所を買い取り新たなポケットパークをつくり、商店街から芝生広場までをつなげていくよう考えてきた。
- ▶ 商店街と芝生の間の空家をギャラリーとして活用してくれる方が現れた。その方は将来的にカフェを作っていきたいということを考えていたので、芝生やコンテナ施設でギャラリーカフェ等ができたらどうなるかという社会実験を行っていった。
- ▶ まちなかイベントを実施するには保健所や警察、行政への申請等、やることがたくさんある。そこでまちなか実行委員会を作って、一括してみんなで取組んでいった。
- ▶ 芝生広場での活動において、出展料を徴収しそれを経費に充て入る。
- ▶ 芝生広場に電気がなく難しいところがあったので、芝生広場の中の市が持っている土地に電柱を立てた。
- ▶ そこから電気をとることで毎日明るくすることができるようになった。昨年はクリスマスイベントも実施することができた。
- ▶ 実行委員会の人たちは、メールではなくSNS でつながっている。それにより気軽にコミュニケーションができており重要なポイントだと考えている。
- ▶ 他の活動として、芝生があると色々な活動ができるということでまちの色々なところに芝生を持って行く出張芝生という取組も行っている。宇部市内で歩行者天国の取組が行われていた。しかしここには滞在するスペースが無かった。そこで出張芝生を行い芝生スペースを作ることでそこに滞在した人の行動がこれまでと変わってきた。滞在する人の量が増え、経済効果も2、3倍に増加した。



活動を見える化する



電柱の設置

出典：宋氏資料より抜粋



2022年に行われたクリスマスイベント

- コロナ禍に道路占有を行いオープンカフェを開くイベントを行った。実際に道路占有ができるという制度ができてからオープンカフェを出そうというところまで非常に短期間でできた。これは実行委員会が組織されていたから、そこで話すことができたからである。
- まちなかを全て公園にしようという取組も行ってきた。常盤通の側道を公園にする取組を行っている。
- 今までには何かの取組を実施する時に、市長を始め学識経験者関係団体の偉い方々が検討して合意を図っていく必要があった。しかし、これからは市民がやりたいことを提案して、実践している人たちみんなでどのように作っていけば良いかを考えて行政側の設計に結びつけていくことが重要である。
- 行政がデザインして民間が利用・活用するというのでは中々利用されない。行政と民間、専門家が一緒にデザイン・マネジメントをしていくことでガバナンスができていく。

【意見交換・ディスカッション】

(堀江氏) 都市計画の背景がだいぶ変わったのでまちづくりへの向き合い方が変わってきた。まちづくりの主役は地域であり、体制を仕組み化することが大事だということが1つポイントだった。次に、あそこに行けば誰かに会えるよねという場所があることが、地域の安心感につながっている。人に出会える場所があるというのがまちづくりにとって重要な要素である。

学生だけが活動しているのではなく、地域の方飲食店をされている方が関わり、活動の多層性が生まれてくると、「あ、あそこで自分もできるのではないか」という思いが起こってくるのかなと思った。

3つ宋先生に伺いたい。1つ目が「みんなの思い」をどう可視化していくのか。2つ目が大学や学生と連携する秘訣は何か。3つ目が「ひとづくり（人のネットワークづくり）」の極意は何か。(宋氏) 1つ目は、最初から可視化することを考えすぎても難しい。少しずつ積み重ねていくことが大事。また、拠点があることがとても大事。

昨日、この地域のまちあるきを行ったが緑が多いと思った。緑の力はとても大きい。緑があることでコミュニティが生まれるということを感じている。緑が好きで清掃したい、管理したいという方が集まれる場所があるのではないか。

宇部ではたまたま行政が買い取った場所を芝生広場にしたが、最初は芝生エリアは移っていくのではないかという考えもあった。しかし、活動を続けていく中で芝生広場が集まるへそになっていった。

ふんしんせせらぎ通りを見させてもらったが、ここで人の名前が書かれている花壇があり、それぞれが管理しているということがとても大事な活動の見える化だと思う。

東久留米市の氷川台という自治会があるが、自治会の参加加入率が97%。それはなぜかという、住宅地の中に農園があり、農業をやりたいという住人がおり植物を育てている。なぜやっているか調査したところ、好きでやっており、ここに来る人同士の会話が生まれている。さらに、昼過ぎになるとその野菜を買いにくるお母さんがいて、コミュニケーションが生まれていた。こういったことが見える化だと思う。

次に、大学や学生と連携する秘訣について。

大学では座学だけでは学ぶことに限界があると感じている。そこで、学生を外に出させることをしている。それによって、1年目と3年目で学生は大きく成長している。学生が地域に出て怒られることもあるが、社会を学んでいる。

最近では学生同士のネットワークが広がっており、学科に依らずやりたい学生が参加できるようにしており、活動に参加する学生が増えている。こうした動きも学生発意だった。

地方ならではの特徴で人材が少ないというのがある。地方では人材が少なく、学生の提案力が高くとても有効である。社会ニーズの変化に早く対応できるのも学生である。大人は学生が考えたことを予算の中でどう実現できるかを考えている。

そこに行政のバックアップが必要。こういう大学の取組もリサーチフィーを行政から頂いて実施している。

地域で学生を育てていくという視点も必要である。

3つ目の質問として、地域で取組を進める上で担い手が重要である。ひとづくりの極意を教えて

頂きたい。チームも重要だと思った。

持続可能ということは、リターンが大事だと思う。ボランティアで続けてくれというのは無理がある。

宇部市でイベント企画をしている方は、イベントの中で、自分自身もビールを売っている。一生懸命人を集めようとする事で自分の売り上げも上がるというリターンがある。

そろばん勘定だけではまちは良くならないし、ロマンだけでもまちを良くする取組は実現できない。ロマンとそろばんの両方が必要。

e) 質疑応答

Q. アメリカのポートランドの話があった。世界一住みよいまちづくりという話があったが、その辺りを伺いたい。

(宋氏) ポートランドでは、ネイバーフッドアソシエーションと呼ばれる自治会組織が95 作られている。またこれらを束ねる7つの地域連合がある。日本の自治会とポートランドの自治会の違いは、日本では世帯ごとに入るが、ポートランドは1人1人誰でも入れるようになっている。

自治会の活動内容としては、地域の土地利用や交通計画に対して意見を出すことができる権限を持っている。行政の計画を作るときには必ず自治会に情報を公表して自治会で検討した結果を反映させなければいけない。こうした検討プロセスを50年以上行ってきた。

ポートランドで住みやすさを調査した時に、家から徒歩20分圏域に自転車道路、歩道、公共交通、健康食料品店、公園、小学校、商業サービス施設等があるかどうかで各エリアの住みやすさを評価した。この結果をWalk score .comというサイトで「歩いて暮らせるエリアかどうか」を地図上にヒートマップで公開している。そして、これが不動産価値と結びついている。行政では、全ての評価項目を満たしている地域、満たされていない項目がある地域を明らかにし、満たされていない項目がある地域ではそこを満たしていく取組を行うように計画した。なお、この計画の存在を住民に知っているか聞いたところその認知度は7割程度であった。

Q. まちあるきやワークショップを行った今回の結果は、宜野湾市や沖縄県に対して提言を行っていくのか、それとも伊佐地域だけの話か。沖縄県の普天間飛行場の跡地利用に活かしていくという大きな提言に繋がっていくのか。

(宋氏) これまでのまちづくり講座では「まちの将来像」について話してきたが、それだけでは将来像は実現しないので、今できることから少しずつ実践し可視化していくということが大事であるとなってきた。そうした中で今回の伊佐地区で行った取組が、将来的に普天間飛行場跡地利用に結びつく、今できるまちづくり実践活動になると良いと考えている。

Q. 学生との連携という話があったが、学生さんも「ボランティア」ではないことが大事なのかなと持った。若手の会では、参加者が年々減ってきている。地域のために何かをやるという時に、やる気だけでは難しいという気がしてきており、参加することでのメリットを高める方策というところでアドバイスがあれば伺いたい。

(宋氏) ポートランドでは、ネイバーフッドアソシエーションと呼ばれる自治会組織が95 作られ

ている。またこれらを束ねる7つの地域連合がある。日本の自治会とポートランドの自治会の違いは、日本では世帯ごとに入るが、ポートランドは1人1人誰でも入れるようになっている。自治会の活動内容としては、地域の土地利用や交通計画に対して意見を出することができる権限を持っている。行政の計画を作るときには必ず自治会に情報を公表して自治会で検討した結果を反映させなければいけない。こうした検討プロセスを50年以上行ってきた。

ポートランドで住みやすさを調査した時に、家から徒歩20分圏域に自転車道路、歩道、公共交通、健康食料品店、公園、小学校、商業サービス施設等があるかどうかで各エリアの住みやすさを評価した。この結果をWalk score.comというサイトで「歩いて暮らせるエリアかどうか」を地図上にヒートマップで公開している。そして、これが不動産価値と結びついている。行政では、全ての評価項目を満たしている地域、満たされていない項目がある地域を明らかにし、満たされていない項目がある地域ではそこを満たしていく取組を行うように計画した。なお、この計画の存在を住民に知っているか聞いたところその認知度は7割程度であった。

地主に対して行政から「こういったところを悩んでいるから一緒に考えてもらえないか」という課題が与えられるとモチベーションにも繋がってくるのではないかと。行政と地主が伴走する関係性が大事である。東久留米市の事例を見ると、現役の方より定年された方が活動を牽引することも大事でありこれからも頑張ってもらいたい。

また、参加している人の達成感が大事だと思う。1年に1つずつでも良いから、1人1人の「できた、形になった」を積み重ねて何か達成したことを作っていくことが大事であると思う。

Q. ポケットパークの隣の畑を作ったのは私である。なぜ今回、畑の写真を撮って紹介して下さったのか伺いたい。

(宋氏) 非常に素晴らしい取組だと思った。隣にポケットパークがあるということがとても良いと思った。

あえて1つ提案させてもらえるのであれば、フェンスで少し入りづらい感じがしたので、椅子や木の柵等に変えて入りやすい雰囲気づくりをすともっと良くなるのではないかと考えた。

こうした取組1つ1つがまさに今回まちづくりにとって重要であるとお話させて頂いたことである。これからも引き続き取り組んでいってもらえると良いと思う。

Q. 西普天間住宅地区の開発においても元からあった自然資源を残すという取組を行っていると聞いた。緑はただあれば良いのではなく、せっかく今あるものがあれば残していけると良いと思うが、その辺りについてご意見伺いたい。

(宋氏) みどりはまちづくりにおいてとても大事である。みどりを将来どういうシーンで誰がどのように使うのか、そのためにどのようなみどりを作りたいのか、将来の景色を具体的に思い描くのが大事だと思う。

3) 今後の課題

【取組み成果】

●開催結果と開催方法について

- ・「周辺市街地との連携による価値の高いまちづくりのすすめ」をテーマとしたまちづくり講座を2回実施できた。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染状況が収まってきたことから、感染対策を行った上で会場参加ありでの開催と後日動画配信の併用型で開催できた。

●合意形成・情報発信の取組について

- ・普天間飛行場の周辺市街地である伊佐地区において、市民・住民と共に公共空間の活用について具体的に検討し、その実施に向けてどのように進めていけば良いか先進事例から学ぶ機会をつくることができた。

【今後の課題】

●周知及び参加者について

- ・伊佐公民館を会場に実施し、会場周辺の住民の方を中心に参加して頂くことができたが、今後、学生や宜野湾市内全体からより多くの方に参加して頂けるよう周知を工夫する必要がある

●今後の取組について

- ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、庁内関連部署との連携や情報共有、講座の内容を踏まえて実践に向けた地域活動支援が望まれる